

英語リーディング ER26(2)

- (7) Chapter 4 The Sympathetic Universe
- (8) Chapter 5 Quantum Choruses、英語で主観的意見と客観的見解を区別して伝える
- (9) Chapter 6 Bridges 「身近な数理科学」、「日常生活の中にある科学と芸術」、自分の伝えたいことを英語で表現する
- (10) Chapter 7 Synchronized Chaos、「混沌と秩序」これまで出てきた自然科学の英語の復習、同じ議題について書かれた異なる学術記事を読み比べる
- (11) Chapter 7 続き、日英で5分間プレゼンテーション、議論
- (12) Chapter 8 Sync in Three Dimensions、日英で5分間プレゼンテーション、議論
- (13) Chapter 9 Small-World Networks
- (14) Chapter 10 The Human Side of Sync
- (15) フィードバック

【履修要件】

「全学共通科目履修の手引き」を参照してください。

【成績評価の方法・観点】

5回以上欠席した場合は成績評価の対象としない。

平常点60%、期末試験40%

授業中の自由で積極的な発言と、自ら主体的に調べて学ぶ姿勢を評価します。学術英語技術を習得する授業なので、必要に応じて、より適切な英語の発音やアクセント、イントネーション、表現に授業内では誘導していくますが、成績評価では、英語の発音の正確さや流暢な英語力だけではなく、むしろ予習、復習そして積極性や主体性を重視します。

【教科書】

Steven Strogatz 『SYNC The Emerging Science of Spontaneous Order』 (Penguin Press Science) ISBN: 9780141007632

* キンドル版、ペーパーブック等どの媒体の教科書を購入しても構いません。

* 音声（オーディオブック）も入手可能です

【参考書等】

（参考書）

藏本 由紀 『非線形科学 同期する世界』 (集英社2014) ISBN:4087207374

* キンドル版、ペーパーブック等どの媒体の教科書を購入しても構いません。

* 音声（オーディオブック）も入手可能です。

* 日本語版は大判ですが絵、写真、図が多くとてもわかりやすいです。自分のプレゼンテーションの時、日本語版を参照して構いません。

【授業外学修（予習・復習）等】

授業の予習として、わからない英単語や用語は事前に調べておいてください。授業では双方向コミュニケーションを重視していますので、積極的に発言しましょう。

予習や復習は原則ですが、予習ができなかった週でも、技能の授業は出席して得るものがあります。前週前夜体調不良等で予習ができなかった日は、授業時間に集中して積極参加し、知的な刺激を得て帰るようにしましょう。

「英語が苦手」「英語の発音は得意ではない」「英語はあまり喋れない」「リスニングは苦手」と思っていても、問題ありません。学術英語は訓練すれば誰でも身につけることのできる技術です。

英語リーディング ER26(3)

[その他（オフィスアワー等）]

大学生活、英語学習、第2言語習得や留学、その他個別に配慮してほしい点など相談したい案件があれば、毎回配布する出席コメントシートに記入してください。